

令和2年度 第9回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和2年12月10日（木）	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 鹿屋 勉
午後2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午後4時00分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 紺屋 昭男
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長 米田 昭嗣
	教育委員 福里 由加	

会議要旨

1 開会

定刻、定足数に達しており、令和2年度第9回教育委員会定例会を開会した。

議案第19号及び報告第35号は、教育長から、非公開で審議する旨の発議があり全会一致で議決された。

2 令和2年度第8回定例会会議録の承認

承認

3 議事

報告第34号 令和2年度垂水市一般会計補正予算（第11号）案についての市長への意見申出について

議案第19号 令和3年度垂水市一般会計当初予算要求について

報告第35号 垂水市立学校給食センター業務の民間委託に関する垂水市職員労働組合との確認書締結について

4 その他

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第34号 令和2年度垂水市一般会計補正予算（第11号）案についての市長への意見申出について	令和2年度垂水市一般会計補正予算（第11号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	承認
議案第19号 令和3年度垂水市一般会計当初予算要求について	令和3年度当初予算案の作成について、教育委員会の意見を申し出ようとするものである。	特記事項なし	
報告第35号 垂水市立学校給食センター業務の民間委託に関する垂水市職員労働組合との確認書締結について	垂水市立学校給食センター業務の一部を民間委託するにあたり、教育長の臨時代理により、垂水市職員労働組合と確認書を締結したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	

議 事 内 容 等

3 議 事	
	報告第 34 号 令和 2 年度垂水市一般会計補正予算（第 11 号）案についての市長への意見申出について
教育総務課長	補正予算案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したことを報告するとともに、その内容（垂水小学校手すり取付及び段差解消等修繕、中央中校庭防塵対策ネット設置、垂水島津家墓所災害復旧関連、地区公民館設備修繕、文化会館ソーラー街路灯、フェンシング垂水カップ経費等に要する補正）について説明。
田原委員	校庭の砂の飛散については、どの学校も悩むところである。ネットだけではなく塩化カルシウムの散布はやらないのか。
教育総務課長	塩化カルシウムの散布は以前から行っている。その上で今回目の細かいネットを設置して、砂の飛散を防ごうとするものである。近隣住民からの要望もあるので、ネットを設置して防塵の効果を検証したい。
田之上委員	垂水小学校手すり取付及び段差解消等修繕は、下肢が不自由な新入児童のためということだが、階段の上り下りは手すりがあれば大丈夫なのか。
学校教育課長	児童にはサポートの教師がつく。階段の上り下りについても安全確保のための支援を行う。
教育総務課長	予算要求の前に福祉設備業者と小学校に出向き、児童や保護者にも立ち会ってもらって小学校施設の検証をした。その上で必要な改修費用を予算要求している。
教育長	フェンシング垂水カップの開催はいつなのか。
国体推進課長	2 月 21 日と 3 月にあと 1 回予定している。
教育長	垂水島津家墓所の復旧スケジュールを簡単に説明してもらいたい。
社会教育課長	まず、調査・測量を行い復旧工事に入る。国の補助金を活用するため、70%の補助、最大で 85%の補助がある。墓碑等への影響もあるので、応急処置として 7 月 6 日に埋まった墓碑周りの土砂及び倒木の撤去を早急に行いたい。本格着工は、来年 4 月以降国の予算決定後となる見込みで、来年度中の完了を目指したい。
	議案第19号 令和 3 年度垂水市一般会計当初予算要求について (非公開) (議案第19号 承認)

	報告第35号 垂水市立学校給食センター業務の民間委託に関する垂水市職員労働組合との確認書締結について (非公開)
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	垂水高等学校振興対策協議会（11月24日）について 11月24日に開催された令和2年度第2回垂水高等学校振興対策協議会総会に出席した。 垂水高校の黒木校長から、生き生きと活動している垂水高校生徒のプレゼンテーションがあった。その中に、垂水中央中学校3年生の生徒全員が垂水高校を訪問していろいろ説明を受ける、「学校説明交流会」の紹介があった。ふつうは先生たちが説明するところを、中央中学校生徒の先輩にあたる高校生が、自分たちの言葉で学校の様子や学習内容等について後輩たちに説明したのだという。垂高の生徒会役員と中央中の生徒会役員との交流会も実施したそうである。 その他にも、垂水小学校や協和小学校などとも、読み聞かせやミシンの指導助手として交流している。他の高校では小学校まで出向いての活動はなかなかないので、いい活動をしていると思った。 そして、私も助けてもらっているのが、水之上地区公民館で実施する「おんだんこら祭り」への協力であり、垂水高校生徒たちが制作したドレスなどの作品を文化作品展示コーナーへ出品してもらって地域に喜ばれている。これは水之上地区に限ったことではなく、他の地域の文化祭にも生徒の制作作品を展示したり、各種祭りに参加したりと交流や連携の幅が広がっている。このように、学校を外に開く活動が様々に展開され、生徒たちの素直さやよさが地域にも伝わってきている。ただ、それらの活動がなかなか新入生増加に繋がらないのは残念である。 しかし、今のように生徒一人一人を大事にし、中学校で不登校だった生徒も高校に入ってから明るく生き生きと活動していることを聞き、心も体も頭脳も大きく成長して、卒業していく姿を見せ続けることが何よりも素晴らしいことで、すぐに結果が出なくてもゆくゆくは新入生増加につながる方策ではないかと思う。 白山登山道整備計画（1月10日、2月7日、3月7日）の取組について おんだんこら祭りのもう一つの柱が、白山に上って白山神社に参拝する

葛迫委員	ことであった。これが久しく行われていないので、水之上地区公民館で登山道を整備して復活させようということになった。「三和づくり 10 年計画」の 9 年目にあたる今年に実施することとなり、ボランティアを募ったところ 1 月 10 日の参加者が、現在 33 人となっている。 登山道入口には、イラストや写真入りの絵地図型案内板、3 合目・5 合目・7 合目・9 合目には標高の分かる道標などを立てて、一人でも安心して登れる山、そして、祭りのときだけではなく日常のレクリエーションの中で簡単に登れる山にしたいと考えている。 看板等の設置費用はまちづくり交付金、ボランティアの人件費はおんだんこら祭りの積立金をそれぞれ充てて、来年 3 月までには整備を終わらせたいと思って頑張っているところなので、皆さんに紹介しておきたい。 才原家の氏神祀りについて 11 月 27 日（金）、中俣の才原家の氏神祀りに参加する機会に恵まれたので報告したい。 春日神社の氏子として、才原家が毎年 11 月 27 日に家内安全を祈願しているもので、社会教育課長であった森山氏の奥様が才原家のご息女ということから声をかけていただいた。この日は、才原家の 7 人が祈願に訪れ、米・塩・水・酒・野菜・魚・榊などを供えて神主に祀ってもらっていた。 場所は、荒崎から旧焼却場横の農道を東に 2・3 分進み農道から右側の小道を南東に入ったところで、椿や桜といった木々がうっそうと茂って苔が綺麗に生えた平地の奥に 70 センチほどの祠があった。 祠には春日大明神が祀られており、才原家が代々守っていると話していた。以前、付近を掘ったところ、多くの貝殻が埋まっていたとも教えてもらった。昔はみかん畑だったということで、隣にはみかん小屋の跡が残っていた。このことは中島信夫氏の「ふるさとの歴史（協和編）」（平成 16 年発行）の中に記されている。 小さな森の中で古来より営まれてきた氏子たちの儀式は、自然環境の中で椿や桜の木々が天空に伸びていく様とつながっているように感じた。過去から現在、そして未来へと繋がるイメージがそこにはあった。 桜島・錦江湾ジオパークスケッチコンクール入賞作品の展示について 以前、報告させてもらった「桜島・錦江湾ジオパークスケッチコンクール」の入賞作品が、12 月 2 日から 9 日までの間、道の駅たるみずはまびらに展示されていた。今後、重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム、イオンモール鹿児島、鹿児島市役所みなと大通り別館と東別館、鹿児島フェリーターミナルなどに展示され、最後に 2 月 19 日から 3 月 19 日までの 1 か月ほど森の駅たるみずに展示される。 水之上小学校、新城小学校児童の作品も展示されるので是非ご覧いただきたい。 田之上委員 垂水中央中学校合唱コンクールについて 学校応援団活動の一環で、垂水中央中学校の合唱コンクールを鑑賞する
-------------	---

福里委員	ことができた。コロナの影響で例年より練習時間が短く、その練習もマスクをしたままで行うなどの制約がある中で大変だったと思うが、当日は皆がよい表情をして素晴らしい歌声を響かせており、クラスが一つにまとまっているように感じられた。 会場の文化会館では、先生方が常にマスク着用の徹底を呼び掛け、コロナ感染予防に配慮していた。入場制限のため観客は保護者のみで少し寂しく感じたが、何よりも合唱コンクールが実施できたことがよかったと思ったところである。 秋の読書週間「読書まつり」について 垂水小学校の読書まつりに参加させてもらった。例年は2単元を使って全学年実施するところを、今年はコロナ対策のため1年生と2年生のみとなり、学年別々で可能なかぎり間隔を空け、しっかりとマスクを着用した上で行った。大型絵本、紙芝居、音楽ペープサートなど楽しいお話を楽しんでくれたものと思う。 協和小学校では、図書委員の児童が一緒に参加してくれて、紙芝居や落語の「寿限無」などを発表してくれた。たくさん練習をしたということで、大人の私たちも目を見張るくらい素晴らしい発表であった。 垂水中央中学校の学校評議員会について 今日午前中は、垂水中央中学校の学校評議員会に行ってきた。 中央中はいつ行ってもきれいで、生徒たちも落ち着いて授業に臨んでいた。話し合い活動が復活していたり、ICTの機器を使っていたり、いろいろな形態の授業があって興味深く参観させてもらった。 行事の多い2学期であるが、コロナ禍のため、子どもたちも先生方も制約が多く大変だったと思うが、先生方や教育委員会の配慮のもと、いろいろな行事が実施できていることを嬉しく思う。 演習林活動（垂水小学校）について 垂水小学校の5年生は、11月26日と27日に1クラスずつ、大野原の鹿児島大学演習林での演習林活動が予定されていたが、鹿児島大学におけるクラスター発生の関係で前日に突然中止の連絡があり、あまりにも突然の中止の連絡に子どもたちはショックを隠し切れない様子だった。 演習林活動は、垂水小学校の特色ある学習の一つとして毎年5年生が行っているもので、自然環境について課題を設定し、課題に対する仮説を立てた上で実際に自然と触れ合う体験をすることで、課題への答えやふるさと垂水の素晴らしさを見つけ、自然保護の大切さを理解し、これからの生き方について考えられるようにすることを学習のねらいとして実施されている。今年は、5年生の先生たちが「木こりになろう」というキャッチフレーズを付けて、垂水の自然について勉強を続けていた。 1学期には、コロナの影響で大隅青少年自然の家での宿泊学習が中止になっており、「今度も中止か。」とがっかりしていたところ、長崎大学教育学部の井出准教授ゼミの学生の皆さんをはじめとする関係者の配慮により、27日に小学校で実施していただくことになった。鹿児島大学演習林に
-------------	---

教育長

入っての活動はできなかったものの、子どもたちは約2時間、のこぎりを使って木を切ったり、森の植物を間近で見たりと、知識だけではなく実体験としていろいろ感じ取ることができて本当によかったと思う。

体験学習の様子は、新聞にも大きく取り上げられていた。また、子どもたちの作文を週報で見たが、ほとんどの子どもが体験できた喜びを書いていた。実際に体験することで学ぶことがあり、その体験を言葉で表現することは大事なことである。今回の体験学習の実施について配慮してくださった先生方、関係者の皆さんに心から感謝したい。

垂水高校振興対策協議会総会について

田原委員の報告にもあったとおり、11月24日に垂水高校振興対策協議会総会があり出席させてもらった。黒木加代子垂水高校校長による垂水高校の活動報告の中で、学校や生徒たちの活動に対し二つの嬉しい評価を受けたとの報告があったので皆さんに紹介したい。

一つは、「鹿児島県優秀教職員表彰」組織の部における垂水高校教務部広報係の表彰である。これは、広報担当職員と生徒が作成し、垂水高校の活動状況を情報発信する情報誌「TaruTama」の内容と、平成24年から年2回、現在17号まで継続して発行していることが高く評価されたものである。

もう一つは、内閣府地方創生推進室が主催する「地域創生☆政策アイデアコンテスト2020」での九州経済産業局長賞の受賞である。「総合的な探求の時間」の中で、普通科の2年生3人が制作した成果品を、「垂水『食』プロジェクト」と題して応募したところ、地域を元気にする政策アイデア「高校生・中学生以下の部」で、九州ブロックの最優秀賞である「九州経済産業局長賞」受賞2校の一つに選ばれたものである。

総会の中で、「垂水『食』プロジェクト」発表の場を与えてもらえるよう、会に出席していた各団体の代表に要望していたところ、12月17日に開催される垂水経済同友クラブ総会で生徒3人が発表することになったとの連絡があり、楽しみにしているところである。

GIGA スクール構想先進地視察について

11月17日、18日に佐賀県武雄市を視察した。武雄市長はICTを活用した教育に力を入れており、平成22年には2校のモデル校をつくり、試験的に小学校4年生以上に一人一台のタブレットを配布するなど先進的な取組を実施している。

視察させてもらったのは、武雄市のGIGAスクール構想のモデル校、武内小学校であった。その日はちょうど武雄市教育委員の学校訪問で、また、鳥栖市の教育委員会も視察に来ており、3市教育委員会相乗りでの授業参観となった。

授業中は、子どもたちが皆、目をキラキラさせていい表情をしており、一人一台のタブレットがこんなにも子どもたちを変える道具なのかと改めて思った。子どもたちはタブレットの操作に慣れており、堂々と自分の意見を出し、わいわいがやがや会話を交わしながらどんどん授業を進めていた。

教師は、コーディネーターの役割で、「この意見とこの意見をくっつけた

教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長 国体推進課長 6 閉 会	らどうか。」などと、子どもたちのつくった素材を生かしながら授業をつくっていく感じであった。その教師は機器の操作を熟知しており、子どもの反応のすくい上げもうまかった。 I C T支援員にも感心した。技術者でありながら授業に参加し、持っているノウハウでタブレットの活用法について迅速に対応していた。そんな授業風景を見て、一人一台のタブレットを十分に生かせるレベルまで持っていくには教員一人の力ではなかなか難しいのではないかと感じたところだ。 今回の武雄市視察では非常に素晴らしい学びをさせてもらい、授業の主役は子どもたちだということを改めて思ったところである。子どもたち一人一人が、タブレットを駆使しながら自分の意見を堂々と上げていく。教師はそれらをうまく取り上げながら、きちんと子どもの言葉でまとめていく。そういったものがうまくかみ合うと、ギガスクール構想がまさに子どもたちの言葉の力、学力、総合的な能力を高めるのにふさわしい、これからの必須の文房具になっていくのであろう。 4課長から、11月10日から12月10日までの主な行事等の実施状況について報告するとともに、1月8日（次回開催日）までの行事予定についてお知らせした。
---	--